

笑顔創造

Smile creation

第3号



「めねぎのうえんのガ・ガ・ガーデン！」より：合同出版

発行日 2023年6月1日
発行元 京丸園株式会社
代表取締役 鈴木厚志
〒435-0022
静岡県浜松市南区鶴見町 380-1
E-mail kyomaru@ck.tnc.ne.jp
URL <https://www.kyomaru.net>

となりのクラス

私が中学2年生の時、隣のクラスは特別支援学級でした。壁の向こう側からはいつも騒がしい声や物音が聞こえていました。

クラブ活動の選択で私は、農業高校を志望していたので内申点狙いで園芸クラブを選択しました。集合場所を見るとなんとその場はとなりのクラス。園芸を教える先生が、特別支援学級の担任だったのです。

となりのクラスなのにどんな人達がどんなことをしている場なのかまったく知らなかったので未知の世界の扉を開ける感じで緊張しました。

教室には先生と特別支援学級の生徒が座っていて間違いなく場違いなところに来たと後悔。全校の中で園芸クラブを選んだのは普通級でたった3人。自然に私達が彼らに合わせた仕組みを受け入れることになります。

クラブ活動は、彼らに合わせたメニューで学校菜園・花壇の手入れを行います。いま思うと、ここがユニバーサル農業の原点でした。

教室で座っている時は落ち着かない彼らが、畑や花壇で土や植物と触れている時とても穏やかな顔つきとなり作業もとても丁寧だったことを思い出します。

その時、先生が「彼らと農業の相性がとてもいいんだよな～」と、いつも言っていました。

ユニバーサル農業の核は、中学2年のクラブ活動で芽生えていたのかもしれない。

余談ですが、一緒にクラブ活動に参加したひとは、長野県の福祉施設で働いています。

～ 今月の活動 ～

5月12日 静岡県立短期大学「社会福祉学科」

5月13～14日 静岡経営塾

5月18日 静岡県西部農業経営士会

5月21日 浜松市手をつなぐ育成会

5月25日 ダウン症児の将来を考える会浜松グループ
静岡県農林環境専門職大学「GAP」

5月27日 第19回園芸福祉シンポジウム in くれ

◎ご参加できます！

5月26日 金曜日 浜松建設的な生き方を学ぶ会(京丸園)

19:00～21:00 開催場所:京丸園

オリジン・コーポレーション 杉井保之氏をお招きしての勉強会です。参加費 1,000円 事前連絡をお願いします。

園芸療法から

農林事務所の職員さんから園芸療法って知っていますか？と声を掛けていただきました。

園芸や農業、自然や植物との関わりによって医療や福祉の向上に繋がるとお聞きして自分の仕事である農業が野菜や花の生産に留まることなく医療や福祉の分野の役に立てるのではと可能性を感じ勉強を始めました。

機能回復訓練として園芸療法を活用し回復した人たちはその後どうするのだろうか？ふと疑問が湧き先生に質問しました。「そこが大きな課題なんです！」と。特に障がいのある人たちが園芸療法によって活動ができるようになって働き場につくことが非常に難しい状況を教えていただきました。

「鈴木さんは、農業やられているのなら園芸療法の要素を活かした働き場をつくりだして下さいよ！」とアドバイスいただき「機能回復」と「働き場」の要素をもったユニバサール農園の構想をスタートさせることになりました。

産業をデザインする

ユニバサールデザインというと住宅や公園などの生活環境のデザインのことだと思っていました。

垣根が弊害となるならば、不具合が乗じるのであれば、その障害を取り除けばいいのではと思考するのがユニバサールデザインで誰もが利用しやすく、暮らしやすくなるようにものの仕組みをつくり出します。

7つの要素で構成されています。①誰でも「公平性」 ②選べる「自由度」 ③かんたん「単純性」 ④わかる「明確さ」 ⑤「安全性」 ⑥むりなく「負担軽減」 ⑦広さ「空間性」。

生活空間だけでなく働き場(産業)にこの要素を組み込むことができれば多様な人達が活躍できる場が広がるのではと考えました。

現在農業は、農業人口の減少だけでなく、農作業死亡事故が増加するという大きな課題を抱えた状況にあります。農業が特定の人しか関われない産業になった弊害のあらわれだと感じています。

農業をユニバサールデザインし誰もが安全に参画できる働き場が全国に広がることを願って。

今月のことば

ユニバーサルデザインは

あらゆるゆるる障害を無くす